

酒々井町

郷土研究会会報

第113号

平成16年7月1日
酒々井町郷土研究会
広報部

思い出・雑感



酒々井町助役 石井 清孝

私は、昨年の4月から酒々井町郷土研究会の皆様のお話をお伺いしたり、郷土史講座等に出席をさせていただき、酒々井の歴史や千葉氏について勉強させていただいています。

恥ずかしい話ですが、千葉氏が本佐倉に本拠を構え、酒々井の地が下総の中心として栄えたということは今まで知りませんでした。おかげで、思いがけずに子供のときの記憶がよみがえってきて、懐かしく思っています。

私は、市川市にある手児奈靈堂の近くで幼稚園・小学校時代をすごしました。いまでも貴重な緑の残る真間山、里見公園や江戸川の河川敷が私の遊びまわった所です。

われもみつ ひとつにもつげむ
かつしかの ままのてこなが
おくつきところ (山部赤人)

手児奈靈堂は、万葉集にも歌われた、手児奈という、とても美しい娘の悲しい伝説のあるところだ。

しかし、私には、放課後暗くなるまで境内で三角ベースに熱中した後帰りに寄った駄菓子屋さんで飲んだラムネの味の思い出の場所。

そして、夏の祭礼には十円玉を握り締めて、鉛細工のおじいさんの、手品のような指先に、時間を忘れて見入っていた場所です。

今でも、手児奈が水汲みしたという「真間の井」が残っています。

かつしかの ままのいみれば
たちならし みずくましけむ
てこなしおもほゆ (高橋虫麻呂)

酒々井と違い、お酒は出なかったようです。

真間山、里見公園周辺は古戦場で千葉一族と馬加千葉氏が戦ったところ。そして、千葉氏も加わった、北条と里見による国府台合戦のあったところだ。

私は小さいころ、父親に連れられて、よく真間山や里見公園にセミや玉虫を取りにいきました。

毎年、家族で行った江戸川の花火大会。お土産の走馬灯。翌朝にはしぼんでしまうヘリウム風船。

合戦の歴史をたどっていく途中でなぜか、自分の小さいころの記憶が思い出されてきました。

今の私は昔の父に比べて、あまり子供に接していません。今、親子関係が色々言われていますが、まずは自分からは始める必要があります。父はいま、寝たり起きたりの生活



手児奈靈堂

ですが、いままさならながら感謝の気持ちです。今度一緒に温泉に行こうとおもいます。

芝山で太古の

タイムカプセルを楽しむ

穂満 弘道

三月二日、前夜の雪がまだ残る寒い朝、町バスで芝山に向かう。

先ず、殿塚・姫塚(国史跡)へ。県道から歩くこと数分、雪に覆われた大小二つの前方後円墳が現れる。寒気と静寂、暫し立ち尽くす。古墳後期に築造された、この地方の豪族一族の墳墓とみられる。

両塚からは、人物・動物・器財等の形象埴輪が大量に出土しており、その種類も多かったという。また、塚に並べられた形象埴輪の配列からは、古代の葬送列の様が窺われ、我が国初の貴重な発見となっている。

続いて、芝山仁王尊・観音教寺へ雪解けに滑る急な石段を登りきると開放感溢れる境内に達する。

ここは、奈良時代末期に創建された天台宗の古刹である。本堂・三重塔(県文化財)・仁王門等が立ち並び、漆黒の仁王尊と共に、見所一杯。

はにわ博物館もある。芝山古墳群出土の埴輪を中心に、太古の遺物が展示されていて興味は尽きない。

濱名副住職から、埴輪の意義や芝山

埴輪の特徴について説明を受ける。

中でも、顎鬚を貯えた男性埴輪から、武射の国を治めた人々は、高句麗からの渡来人の末裔ではなかったかと考えられる、という話は面白く興味をそそられた。

古墳と埴輪、究極のタイムカプセルを目の前にして、太古の人々の生活に想いを馳せたひとときでした。

昼食後、三里塚御料牧場記念館へ畜産振興策に沿い、綿羊の飼育から始まった御料牧場が、空港建設によって閉鎖されるまでの歴史を学んだ。往時を偲ばせる記念品や貴賓館を見学して帰路についた。

温もりの観察会

亀井 香久乃

春の郷土研野草観察会は、花祭りの四月八日であった。今回は副会長の口添えにより、墨の東伝院にて行われる灌仏会法要に参列できることになった。十時ごろには檀家の善男善女の方々が本堂に集まり穏やかな表情でひかえていた。

観察会参加者ら二十余名は、整列された椅子に徐に着き、住職のご臨場を待った。

本堂に安置された誕生仏は、花御堂と呼ばれる小さなお厨子のような仏具に立たれたお姿であった。やがて読経が始まり向かいには揃いの法被を羽織った地元のご詠歌伝承者のご婦人方による美しい歌声の流れと共に、住職は肅然と歩を進まれ厳かに仏像に甘茶をかけられた。生憎私は後部席だったのでこの様子を具に拝観できなかった。住職に続き参列者は順次灌仏の栄に浴した。

無事に法要が済み、私たちは、寺の奥様のご好意で抹茶を一服季節の

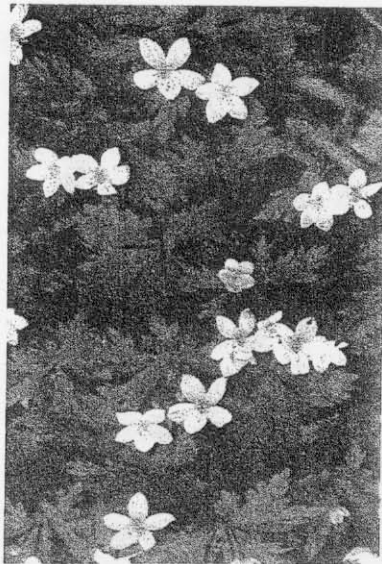


表情豊かな人物はにわ

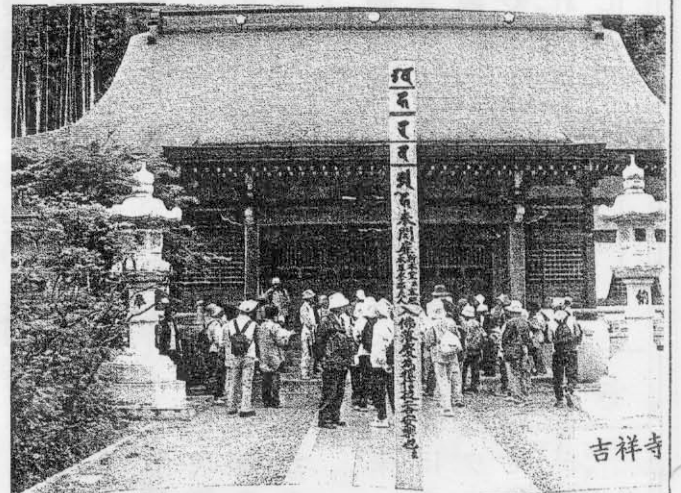
柏餅と共に頂戴した。そのお点茶のおいしさは格別で、使われた茶碗も天目に等しく、心ゆくまでの遇しであつた。

接待くださった皆様に深謝し、寺の近くの観察現場へ急いだ。休耕田に二輪草（きんぼうげ科）が清楚な白花を見せていた。近くにはオオバコ、ヘラオオバコ、ツボミオオバコと三種あつた。三階草（しそ科）は住宅地で見ると違い鮮やかな紅紫で、他草と妍を競っていた。

感動している時間はなく、昼食会場へ急ぐ。会館内のテーブルには役員さん達が山菜料理を並べて待っていた。とりどりの味に皆舌鼓を打つた。本日の観察会は予期せぬ体験あり、食感ありの意義深い日であつた。役員の皆様に心よりお礼もうしあげます。



ニリンソウ



吉祥寺

町内史跡めぐりに

参加して

友山 英子

五月九日、時々小雨に見舞われながら、本佐倉の史跡を歩きました。

酒々井生まれの私も、ふるさと酒々井の浪漫を味わい実感した一日でした。実家の菩提寺である経胤寺は、法事等で慌しく訪れることがあつても境内をゆっくり拝見したことはありませんので、戸の閉められた本堂のいつもと違う趣に暫し感動してしまいました。

その後は愛宕神社・長熊廃寺跡・

白山神社・神明大神社・吉祥寺と初めて訪れる場所ばかりでそれぞれに楽しめ、吉祥寺脇の飲むと乳の出が良くなるという言葉が弘法大師ゆかりの水や、全国五県にしかない双体道祖神の内唯一丸彫りで造られている等興味深いお話に想像は膨らむ一方でしたし、神仏混合という形にも人々の心の抛り所としての信仰心の厚さや豊かさを感じました。

また今回の史跡巡りでは期待していた場所がありました。エコトピア酒々井の傍らにあつたという廃寺の文殊寺です。文殊寺には天狗に掠われて京見物に行った小僧の話や、その庭に七色に咲く八重桜の大きさがあつたという話が残っています。

小・中学校の子ども達に「酒々井には四つの昔話がありますその一つは文殊寺のおはなしです・・・」と語っているのは、是非その場所を確認したいと思つていたので。いつも子供達に、酒々井を愛し大切に思う心を持つて欲しいと願つて昔話を語っていますので、今回は嬉しい機会でした。これからも酒々井の史跡や昔話をもっと良く知り大切にしたいと、浪漫の一日を終えました。

「会津の旅」

遠藤 博之

五月十一日から一泊二日の「会津の旅」、総勢三十九名、酒々井中央公民館を七時にバスで出発会津若松市を訪れた。

一日目は会津若松市役所文化課の近藤氏の案内で「大塚山古墳」「御薬園」「松平家墓所」を見学。

二日目は「鶴が城」「勝常寺」「須賀川牡丹園」を見学、午後七時四十分、酒々井町へもどり、二日間の余韻さめやらぬなか、それぞれ我が家に戻った。

大塚山古墳、四世紀中頃の築造と云われる出土物の三神二獣鏡が岡山県備前市鶴山古墳から出土したかがみと同版であり、四世紀中頃に大和朝廷が東北の地まで勢力を及ぼしていたことが証明されたとの説明を受けた。

御薬園、名前の示す通り藩政時代の薬草栽培地を後に会津若松市が整備した薬用植物園が附設されているが、むしろ松平氏歴代の保養所であった庭園として「心字の池」とその中

にある「亀島」と建築物、「楽寿亭」などからなる国指定名勝庭園が見える。

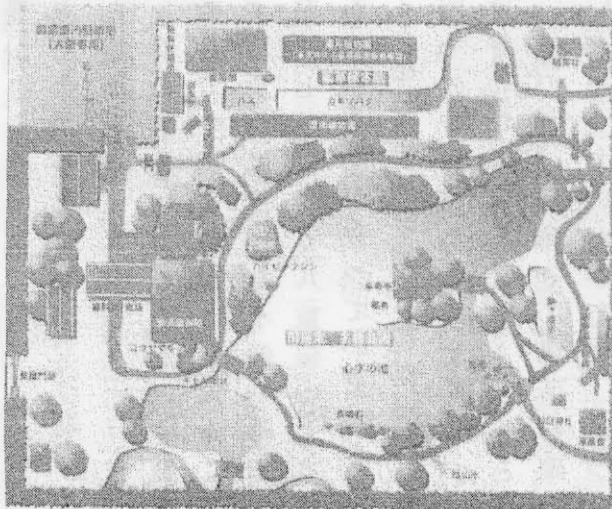
藩主松平家墓所、当墓所は若松市が修復整備、中でも院内御廟の藩主の廟はその一つ一つが拝殿、亀石、墓石からなる長年かけて建造された広大なもので原石をここまで引き上げてきて細工したものだとの説明にあらためて藩主松平家の権力の偉大さを知る思いであった。

宿泊した秘湯「観山」、弘仁のころ弘法大師が巡礼の途中で立ち寄り、この地は塩が乏しきことを知り老婆へのもてなしの礼として三十九日間の護摩を焚き、岩を杖で突いたところ岩の二箇所から塩の温泉が湧き出たという伝説の宿であった。

鶴が城、晴天に恵まれた天守閣からは昨日見学した大塚山や白虎隊自刃の地（飯盛山）をはじめ若葉の会津盆地と遠く残雪を残す連山とのパノラマの全貌を満喫できた。

勝常寺、国宝の木造薬師如来・日光菩薩・月光菩薩の薬師三尊ほかを拝観することができ、住職のウイツトの効いた話に話も時間を忘れるほどに楽しく聞くことができました。

須賀川牡丹園、牡丹を実生で育成するのは難しく、通常販売しているものは芍薬の木に接木したものだといふ。牡丹園には二百年以上たつ実生の牡丹もあり改めてその貴重なものであることを知った。



御薬園見取り図

会計報告

春の野草観察会	
(平成16年4月8日)	
参加者15名	
収入	会費 100円
	100円×15=1,500円
計	1,500円
支出	諸雑費 3,000円
不足分	1,500円(本会計より)
会津方面	
(平成16年5月11~12日)	
参加者39人	
収入	会費 21,500円
	21,500円×39=838,500円
支出	(有)ミヨシ観光 779,725円
	諸雑費 47,223円
	826,948円
残	11,552円(繰越し)

見学

案内

名勝探訪

田無不動尊方面

九月十日(金)

雨天代替十三日(月)

まだまだ暑さが厳しい中、武蔵野の自然を求めて田無不動尊に行きま...



郷土史講座

「現代から読みとく町村の歴史」

八月一日(日) 十三時三十分

於 公民館 研修室

千葉県史料研究財団 研究員

中村政弘 先生

酒々井町は明治二十二年の町制施行以来、合併することなく「独立独歩のまち」として歩み、歴史の香りと伝統を育み発展してきました。

「酒々井町の道標」展示会

七月二〇日〜二五日

於 公民館ロビー

昨年秋より町内全域で調査していただきました酒々井町の道標についての発表展示をいたします。

町内における道標の位置を地図上で表示するほか、年代の古いもの、形状の大・小、特徴のあるものなど写真を貼り、所在地・年代・刻字について解説してあります。

あとがき

七月になりました。梅雨もそろそろ半ばを過ぎようとしています...

五色不動について
江戸城と江戸に入る街道を守護するため、慈眼大師天海が江戸城鎮護のために不動明王像を造立し、王城鎮護の四神にならない江戸城の四方に配置したのがはじまりである。

- 目黒不動尊 東京都目黒区下目黒三・二十・二六
目白不動尊 東京都豊島区高田二・十二・三九
目赤不動尊 東京都文京区本駒込一・二十・二十
目黄不動尊 東京都江戸川区平井一・二五・三二
目青不動尊 東京都世田谷区太子一・一五・一

郷土研日誌

Table with 3 columns: 月日, 内容, 参加人員. Lists various events and their attendance from March to July.

所でした。郷土研ではいま「酒々井町の道標」展示に向けて準備が着々と進められていきます。皆様、是非ご来場ください。暑さに負けず、楽しいことを見つけて頑張ります。

郷土研行事案内

平成16年7～9月

史談会	7月 3日(土) 13:30 公民館 「古今佐倉真佐子」⑫ 講師：高橋健一先生	8月 休講	9月 4日(土) 13:30 会議室 「古今佐倉真佐子」⑬ 講師：高橋健一先生
古文書を 読む会	7月 27日(火) 13:30 文化財調査事務局 (元 社会福祉協議会) 「島田家文書」⑫ 講師：青木朝次会長	8月 休講	9月 21日(火) 13:30 文化財調査事務局 (元 社会福祉協議会) 「島田家文書」⑬ 講師：青木朝次会長
道標展示会	「酒々井町の道標」 期間 7月20日(火) ～ 7月25日(日) 展示場所 中央公民館 ロビー		
郷土史講座	「現代から読みとく町村の歴史」 8月1日(日) 13:30 講師 千葉県史料研究財団 研究員 中村 政弘 先生 会場 中央公民館 研修室 (2階) 後援 酒々井町教育委員会 開場 13:00 入場無料		
名勝探訪	「田無不動尊方面」 9月10日(金) 雨天代替 9月13日(月) 集合 京成酒々井駅 8:10 京成酒々井駅 — 日暮里駅 — JR — 高田馬場駅 — 西武 — 田無駅・・・ ・ ・ ・ 総持寺(田無不動尊)・・・石幢六角地藏尊・・・田無駅 — 高田馬場駅 — 日暮里駅 — 京成酒々井駅 16:00頃解散予定 (一部コースに変更あり) 途中お弁当を開く場所がありませんので、飲み物だけご持参ください。 駅付近での昼食となります。		